

氏名 笹川 将吾 法科大学院等の在籍年次 3年次

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：One Asia Lawyers シンガポールオフィス (Focus Law Asia LLP)

滞在期間：2025年8月31日(日)～9月20日(土)

(インターンの期間は、土日休みを除く15日間)

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

(1) 事務所の構成等

Focus Law Asiaにジャパンデスクがあり、One Asia Lawyersの先生方が所属されています。事務所には、弁護士以外にも、パラリーガル・秘書に日本人の方がいらっしゃいました。

ジャパンデスクの業務としては、主にシンガポールへ進出した日系企業についての企業法務を扱っているようです。

(2) インターンシップの内容等

インターン生の勤務時間は、原則として平日9:00～18:00(昼休憩1時間含む)です。早く来ることや遅く帰ることは自由となっています。タイミングによって退勤が遅くなることはありましたが、概ね18時過ぎには事務所を出ていました。

インターンシップでの業務は、基本的にジャパンデスクの先生から割り当てていた

できました。クライアントからの依頼に対応して回答案やレビュー案を作成する、というものが中心的な業務でした。

扱った業務は以下のようなものです。

- ・贈与契約書や売買取引基本契約書、解雇通知書、プライバシーポリシー、就業規則等の法的文書のレビュー/文案の作成
- ・シンガポールの法規制等に関するクライアントからの相談に対する回答案の作成
- ・特定のトピックについてまとめた記事の文案の作成
- ・シンガポールやASEAN諸国の法令・実務慣行のリサーチ
- ・クライアントとの打ち合わせ・所内会議への同席
- ・調停や裁判期日への同席、刑事事件の裁判傍聴

会社法や労働法、個人情報保護法など幅広い分野に関連する様々な業務を与えていただき、貴重な経験をすることができました。

また、通常の業務とは異なるものとして、勤務時間後に、以下のような行事に参加させていただきました。

- ・シンガポールのスタートアップと日本企業の交流会への参加

日本企業との連携を考えているスタートアップ5社が、それぞれの事業紹介を行った後、日本企業からの参加者との交流を行う、というものでした。

スタートアップは全てシンガポール国立大学発の企業でしたが、スタートアップへの大学の支援の手厚さが印象的でした。また、スタートアップと日本企業との交流だけでなく、日本企業同士の交流の場となっており、その繋がり的重要性について勉強になりました。

- ・和僑会の懇親会への参加

和僑会は、シンガポール在住の日本人を中心とするコミュニティです。現地駐在員の方や学生など多様なバックグラウンドを持った幅広い年齢層の方が参加しています。月に1回程度、平日の夜に懇親会が開催されているようで、そちらにお邪魔しました。

3 宿舎及びその他の生活環境について

(1) 滞在先

私は、2週目の週末にマレーシアのマラッカに1泊2日の観光に行ったこともあり、シンガポールでの滞在先としては2つのホテルを利用しました。

1つ目のホテルは、Heritage Collectionという系列のホテルで、13泊しました。良いホテルだったのですが、もともとと同じ系列の別のホテルを予約していたところ、アップグレードにより宿泊することになったものであり、私が宿泊したホテルは、本来は最低3ヶ月の予約が必要な場所のようなので、詳細は割愛します。なお、最寄駅はBugis駅であり、この駅は2路線が通っていて通勤・観光に便利でした。

2つ目のホテルについて、詳細は以下の通りです。

[施設名] Hotel Clover the Arts

[料金] 約50,000円 (5泊)

[諸条件]

- ・事務所まで徒歩15分程度。最寄駅はClarke Quay駅。
- ・駅近くのショッピングモールまで徒歩5分程度でアクセス可能。
- ・洗濯機はないが、すぐ近くにコインランドリーあり。
- ・チェックアウト後の荷物預かりサービスあり。

なお、ホテルは金曜日の朝にチェックアウトし、金曜日の夜は空港泊をして、土曜日のフライトで帰国しました。チャンギ空港はトランジットでの利用が多いこともあってか、スヌーズラウンジなど横になれる場所が多数あり、快適に過ごすことができました。

滞在先については、カプセルホテルやホステルを利用すれば、宿泊費をより安く抑えられるかと思います。もっとも、ホテルを利用すれば、慣れない土地でも落ち着いた環境で過ごすことができるので、滞在期間や価格差も踏まえて検討すると良いと思います。

(2) 食事

朝食は、日本から持っていったスープに加え、ベーカリーでパンを購入して食べていました。

昼食は、同時期に事務所に来ていたシンガポール人のインターン生とともに、事務所の隣にあるラオパサや事務所の地下のお店で食べるが多かったです。

夕食は、ラオパサやホテルの近くのレストラン、観光に行った場所の近くのホーカーなどで食べていました。

シンガポールは物価が高いイメージがありますが、ラオパサなどのホーカーでは、500円から1000円程度で食事をとることができます。

また、昼食・夕食については、先生方と一緒にさせていただく機会もありました。

(3) 服装・気候

インターン中は、基本的に長袖のワイシャツとスーツのズボン、革靴で過ごしており、ネクタイ・ジャケットは着用していませんでした。もっとも、裁判期日への同席の際などにはネクタイとジャケットが必要となります。また、半袖のワイシャツで過ごすことも可能ですが、事務所内はクーラーがよく効いているため注意が必要です。朝・夕は気温が高くないため、通勤時に長袖のワイシャツを着ていても特に問題ありませんでした。

休日は、日中に移動することを考えると半袖で過ごす方が良いと思います。ただし、屋内はクーラーがよく効いているため、羽織物があると快適です。

9月は雨季ではないのですが、突然雨が降ることがよくあったため、折りたたみ傘を常に持つておく必要があります。

(4) 交通機関

MRT（鉄道）とバスがあり、交通網は非常に発達しています。

MRTとバスの料金は、クレジットカード（Visa）を登録したApple Payのタッチ決済で支払っていました。バスは前乗りであり、乗車時に手を挙げないと停まってくれないことに注意が必要です。

(5) 通信

au海外放題を利用しました。面倒な手続きなく、国を跨いでも快適に使うことができました。通信量の上限がない点も良かったです。

私の場合、もともとの契約プランの特典で20日間無料となっていました。利用料金はそれなりにするので、他のe-SIMと比較してみてください。

4 出発に向けた準備等について

(1) 決定まで

まず、5月上旬に学内メールで説明会の案内がありました。5月中旬の説明会に参加した後、派遣希望を表明し、申請書と英語での履歴書（CV）を提出して、6月上旬に面接を受けました。

面接では、1名の先生から自己紹介やこれまで学んだ科目などについて英語で話すことが求められた後、2名の先生から日本語で補足的な質問を受けました。

面接の1週間後に派遣決定の通知をいただきました。

(2) 手続

- ・教務グループの方からの案内に従い、渡航届の提出や保険への加入を行いました。
- ・事務所の先生と連絡を取って日程が決定した後、航空券や宿泊先の予約を行いました。

航空券は、シンガポール航空の関西国際空港・チャンギ空港直行便を利用しました。時期によって変わるかもしれませんが、私の予約時には、学割により、エコノミー席はLCCと同程度の値段となっていました。シンガポール航空は、世界でも上位の航空会社と言われており、実際、サービスも良く快適に過ごすことができました。

滞在先は、過去のレポートの場所や様々なサイトの口コミを参考にして選びました。

- ・指導担当の先生から指示をいただき、Work Holiday Pass¹の申請をしました。大学卒業の資格により申請することになり、学部の卒業証明書（英文）が必要となります。

- ・シンガポールへの入国には、Singapore Arrival Card (SGAC) ²の登録が必要になります。ウェブサイトまたはアプリより、入国日を含む3日前から申請できます。有料で登録を行うとするウェブサイトもあるようですが、完全に無料で登録できるので注意してください。

これらの手続には意外と時間がかかってしまうため、在学中受験後の3L夏に海外エクスターンシップに参加しようと考えている方は、直前期に手続に割く時間が少なく

¹ <https://www.mom.gov.sg/passes-and-permits/work-holiday-programme>

² <https://www.ica.gov.sg/enter-transit-depart/entering-singapore/sg-arrival-card>

済むように、事前に航空券や宿泊先の目星をつけておくと思います。

5 インターンシップに要した費用

(1) 合計 約 367,800 円（補助金 15 万円が支給される予定です）

(2) 小計

- ・航空券 68,660 円
- ・ホテル 211,368 円（19 泊）
- ・交通費 6,463 円
- ・食費 約 40,000 円
- ・観光・お土産 約 26,000 円
- ・保険 14,310 円
- ・雑費 約 1,000 円

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

まず、海外エクスターンシップに参加するか悩んでいる方については、少しでも興味があるならば、ぜひ応募してみることをおすすめします。英語力についてや海外生活についてなど、色々と不安な点もあるかと思いますが、海外の法律事務所で様々な業務に携わることができるという経験は非常に貴重なものですし、大学からの派遣という安心できる環境も恵まれたものだと感じます。また、英語力について、業務に関しては日本語を話せるパラリーガルや弁護士の方に相談することも可能ですし、それほどハードルを高く感じすぎることなく挑戦してみてもほしいと思います。もちろん、英語力は高ければ高いほど良いと思いますが…。

次に、すでに海外エクスターンシップへの参加を決められた方については、貴重な機会を充実したものにできるよう、積極性をもって様々なことに取り組んでみることをおすすめします。私の場合、裁判期日への同席や裁判の傍聴などは、メンターの弁護士の方をお願いして調整いただきました。事務所の方々は親切な方ばかりなので、携わりたい業務があればぜひ要望を出してみてください。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

今回の海外エクスターンシップでは、幅広い分野の様々な業務を経験させていただき、通常では得られない貴重な経験をする事ができたと感じています。

私は、帰国子女でも留学経験があるわけでもなく、3週間海外で生活すること自体が初めてでした。また、英米法下の契約書・法的文書のレビューや、初めて扱う法律・規則に関する相談への回答文の作成は、国内の短期間のインターンシップではほとんど経験したことがない業務であり、これまで学習した日本法の知識だけでは当然対処することができないものでした。

このような状態でも、パラリーガルや弁護士の方から指導を受け、リサーチの方法を教わりながら、なんとか3週間の業務を終えることができました。エクスターンシップの期間を通じて、わからないことについても課題解決のために道筋を立てて取り組む力が養われたと感じますし、英米法や実務についての理解を（ほんの少しかと思いますが）深めることができましたと感じます。

また、これまでとは大きく異なる環境に身を置き、未知の世界に触れ、知識の幅や人とのつながりの幅を広げられたことも、非常に有意義な経験であったと感じます。

最後になりましたが、このような貴重な経験を得られたのは、ひとえに周囲の皆様のおかげであると強く感じています。インターン生として温かく受け入れていただき、業務に関するご指導や生活面でのサポートをいただいたFocus Law Asiaの弁護士・パラリーガル・秘書・事務員の皆様、派遣を決定いただき、手続等に関して細やかなサポートをいただいた神戸大学の教員・教務グループの皆様、期間中にご縁をいただいたシンガポールの皆様、海外エクスターンの参加について相談に乗ってくれた友人、さらに金銭面・準備面で支えてくれた家族に対しまして、この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

以上